

平成 29 年 2 月 1 日

被災地の土地利用型農業を考えるワークショップ

**トウモロコシ・ソルガム栽培による土地利用型農業の未来展望
～水田活用・飼料生産・農畜連携・再生可能エネルギー～**

2 月 22 日（水）13 時 30 分-16 時 30 分

JA ふくしま未来 原町総合支店 2 階ホール

<第 1 部> 基調講演 13 時 45 分-14 時 30 分

昆吉則氏（農業経営技術社）

濃厚飼料として欠かせない子実トウモロコシは、今日ほぼ全量を輸入していますが、減反政策廃止後の水田活用策としての子実トウモロコシの国内生産の可能性について、昆吉則氏からお話いただきます。

福島県浜通り地区の土地利用型農業の可能性、ならびに農畜連携に引きつけつつ、日本の農業の構造改善を課題先進地である福島県浜通り地区から探ってゆきます。

<第 2 部> 被災地の土地利用型農業の未来を考える 14 時 45 分-16 時 30 分

話題提供①：神谷隆氏（太平洋セメント研究所）

話題提供②：森田聡一郎氏（農研機構畜草研／ゲストスピーカー） ほか

座長：石井秀樹（福島大学）

パネルトーク形式で原子力災害による爪痕が残る福島県浜通り地区の土地利用型農業の未来展望を、トウモロコシやソルガム栽培から考えてゆきます。これらの作物は、飼料作物としても資源作物としても利用可能であり、農畜連携や再生可能エネルギーなどの産業連関も視野に入ってきます。水稻・飼料米に続く、新しい農業の形を探り、浜通り地区の農業再生を未来構想してゆきます。

※一般参加の方々は、車座形式のダイアログを聴衆していただけます。

【問い合わせ先】

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 特任准教授 石井秀樹

メール：r641@ipc.fukushima-u.ac.jp

電 話：024-504-2865（うつくしまふくしま未来支援センター事務室）

本ワークショップは、福島大学と太平洋セメント研究所の共同研究（平成 27～）の成果報告であるとともに、福島大学と JA グループ福島・農林中央金庫が平成 28 年 4 月 1 日に締結した「福島農業の再生に資する調査・研究」の連携協定の一環として開催いたします。